

R15

ダークファンタジーBL小説

ダチユラの復活

Rebirth

作
鶺音

illustration: 上月琴葉



天使(外見23)



孤児(17)

《はじめに》

本作は、執筆時点の名義「うらひと」として執筆し、発行名義「鶉音」・サークル名「エンジェルズラダー」として発行しています。同一人物の作品ですのでご承知おきください。

「エンジェルズラダー」 鶉音
(執筆名義 うらひと)

目次

chapter 1 3

× 1	(1)	3
-----	-----	-------	---

× 1	(2)	5
-----	-----	-------	---

× 1	(3)	7
-----	-----	-------	---

× 1	(4)	9
-----	-----	-------	---

chapter 2 13

× 2	(1)	13
-----	-----	-------	----

× 2	(2)	15
-----	-----	-------	----

× 2	(3)	20
-----	-----	-------	----

× 2	(4)	23
-----	-----	-------	----

× 2	(5)	25
-----	-----	-------	----

chapter 1

× 1 (1)

初めて人を手に掛けた僕に、『天使』は薄ら笑いを向けていた。

「……♪」

「……………何さ」

孤児となった僕へのそれは、救いだっただのだろうか。

神の遣いらしい白い装束にそれらしい『片翼』。しかしながら、あまりにもこちらを舐めて見下したような、ふさわしくない表情。

「いいよ、続けなよ。僕はその方が好きだから」

自暴自棄になって人に手を掛けている最中であつた僕でも、一瞬手を放し、もう一人は逃げていく。これは、神の遣いの振る舞いではない。これだけは分かる。

「勿体ない、逃げちゃったね。さて、どうする？ 成功しようがしまいが、キミは追われる身になっていたわけだけど」

「……いや、ちょっと待ってよ。全然理解が追いつかない」

頭がこんがらがっている僕に、『あはは、仕方ないなあ』と笑いながらその『天使』は説明を始めた。

「だってさ、天界の上の方は悪い人を地獄行きにすることを考えてはいるけど、人間界で直接やってしまったほうが手っ取り早いじゃん？ ちょうど良かった、キミに任せたくてさ」

「嫌だ」

「駄目だよ、これはいま運命となったんだ。手始めに、暗殺を試してみようか」

僕の運命はあまりにも突然に、転落から破滅へと進むことになった。

× 1 (2)

僕が握っているナイフから、赤い液体が滴る。

「……な、何を」

「殺すなら、誰から見ても殺すべき奴を殺そうよ」

「……っ」

赤いラインの入った白い装束。そして、白い羽根。頭上に浮かぶリング。僕の目の前にいる「そいつ」は少なくとも人間では無い——いわば「天使」と呼ぶべき——存在には違いない。しかし、そいつが天使だとして、今したことを「英雄」だって？ 翼とリングは確かに——片翼であることを除けば——天使のものなのに、理解しがたい言葉に僕は混乱し、怯えていた。

元々、そんなつもりは無かった。奪われたから、奪い返すためにナイフを盗んで必死に刺した。やらなきゃ、やられるのだから。正義とか罪とか、そんなものを考えるのは贅沢でしかないんだ。ただでさえ、突然放浪するしか無くなったというのに。

「大丈夫さ。僕がその地位は保証する。君は英雄として扱われるから」

「嫌だ。生きていられるだけでいい」

「英雄になれば、住むところも食べるところも、それに着るものになんて困らない。こんな簡単な話などないじゃないか。既に、君は一回成し遂げたのだから」

話を通じない。頭の中をぐるぐると思考が迷走する。

——どうする、どうする?!

雨の降る中、全く濡れていないそいつは、僕の頬ほに手を添えた。

「もう、僕が決めたから。逃さないよ」

そう言って、「天使」は僕に不気味な笑みを浮かべた。

『ダチュラの復活』（天使×孤児BL） 1巻

著者名義 うらひと

発行者名義 鶉音

サークル エンジエルズラダー

印刷所

発行日 初版 二〇二二年二月二〇日 発行

連絡先 @eimens0kusai 【Twitter サークル公式】

※盗作や転売、オークション出品等は厳禁です。スクショなどをSNSにアップロードされる際はハッシュタグ「#ダチュラの復活」を付けて投稿くださると励みになります。

Resale and plagiarism are prohibited, but posting to SNS with hashtag #rebirthofdatu
ra supports my creative activity, thank you.



【攻め】 天使 (外見 23)
金の天使の輪、白い片翼。
「人を殺せ」と命令する
彼の思惑とは——



【受け】 孤児 (17)
家族を失い、やむなく
人を手に掛けたところを
天使に見つかる。

紛争地で家族を失い、生きるために手を血で染めた孤児。
それを見つめていたのは、
薄ら笑いを浮かべた『片翼の天使』だった。
孤児に取引を持ちかける天使の思惑とは——。
天使 × 孤児のダークファンタジー BL 小説。